

令和4年度 海田東小学校 学校評価自己評価表 最終振り返り

学校教育目標 考え実践する 海田東っ子 笑顔・あいさつ・思いやり（EAO）  
 —「よく学び」「よく遊び」「やさしく強く」—

中期経営目標	短期経営目標	取組・評価項目	評価指標	中間値	最終値	最終評価	最終評価時における成果と課題	来年度に向けての方策			
知	自分の考えを深める子	・確かな学力を身に付けた児童の育成	・「海田町標準学力調査」(CRTの結果)	62.5% 10/16	C	C	○重点的に取り組んだ項目については、伸びが見られた。 ○算数の授業では、指導者同士で教え方や要点について単元ごとに確認して臨めたことで、クラス間の差を少なくできた。 ○宿題や課題を指導者が丸付けをし、直しをやり切らせることができた。 ○△すらすらと音読することが難しい児童も多々いる。 ○△クラス間での差が出た。学年での連携を大事にしていきたい。	・学年間での教材研究と指導者の共通理解を図ることができるようにする。 ・朝の学習タイムでは、音読を継続的にできるように位置付ける。 ・結果分析から分かった苦手な単元を中心に、学年末までに復習できるようにする。			
		・授業で深く思考する児童の育成	・振り返りを通して、主体性、自己理解を高める授業の実施				児80%	児79%	B	○単元の序盤・中盤・終盤で定期的に振り返りの時間を設けた。文字数を決めて書かせるなど条件を設定することで、意識を高めることができた。 ○タブレットを活用して、日々の振り返りを記録していくことができた。 ○友達の記事内容を見ながら、入力できるようなシートを準備した。	・振り返りの視点を「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」からもう少し精選し、観点を焦点化する。 ・学年の力に応じた振り返りの仕方を共有し、実践に生かす。 ・目標や計画を立てて、それに対する振り返りを書くことができるようなワークシートを作成し、交流する。
徳	自分や友だちのよさを認め合える子	・行事等における「よいとこ見つけ」の取組	・児童の自己肯定感をより高める	児83%	児84%	A	○自分のよいところ・友だちのよいところを日常生活や行事を通して「よいところみつけ」として定期的に実施した。視点を明確にし、相手を決めたりすることで、目的意識をもって取り組むことができた。 ○放送や掲示で紹介することで自分や周りのよさを目を向けることができた。 ○学習の中で保護者からのメッセージや通信の感想を書いってもらうことで家庭とつながることができた。 ○△自分のよいところみつけは難しいと感じている児童がいるため、さらに教師からの肯定的な声掛けや認め合える児童のかわりを作っていくことが必要。	○よいところみつけの取組は継続していく。 保護者にも参加してもらえよう。ワークシートへの書き込み欄を作るなど、保護者からの肯定的評価を受けられる場を工夫したい。 今後さらに計画的に行っていくよう検討していきたい。			
		・時と場に応じた挨拶ができる児童の育成	・あいさつ運動の実施				児87% 保83% 教83%	児87% 保85% 教62%	A	○児童と保護者のアンケートでは85%を超えており意識の高まりがみられた。児童会の呼びかけによるあいさつ運動の取組で成果が出ている。校内では積極的に挨拶を交わす姿が見られる。 △教職員の評価については前回、今回とも低くなっている。児童が校内や校外で自分から進んで地域の方でできる姿を期待していると思われる。	○児童委員会の取組をさらに充実させる。 ボランティアの方や地域の方への気持ちのいい挨拶ができるよう呼びかけを行っていく。 教職員は期待する児童の姿を意識統一し、進んで挨拶をする姿を示す。
		・場を美しく整えようとする児童の育成	・黙読流汗清掃の指導の取組				・児童および教師アンケートにおける、黙読流汗清掃をしている児童の割合。	児89% 教84%	児87% 教89%	A	○たてわり清掃で、黙読流汗清掃に取り組んでいる。6年生がリーダーとしての自覚をもち静かに集中して清掃に取り組むことができていた。 ○委員会活動や取組子の学びを通して全校でそうじの方法を意識統一することができた。 ○委員会活動の取組とつなげて、さらに児童の主体的な活動としていく。
体	進んで健康・安全を考える子	・基本的な生活習慣の定着に取り組み、元気に過ごそうとする児童を育成	・基本的な生活習慣徹底のための指導の取組	児75.6%	73%	B	○保健委員会が生活リズムを整えることの重要性などを全校朝会で提案することができた。 ○養護教諭が掲示物や保健だよりで、保護者への周知を強化し、取り組むことができた。 △児童がもっと主体的に取り組むための工夫や自己の取組について振り返るための手立てが必要。	○生活リズムを調整する力を年間を通して育成するために、児童主体になるための手立てや、教員間での課題共有と指導の方向性の共有を図り、より充実した取り組みにする。			
		・外遊びの指導の取組	・児童および教師アンケートにおける、「1日に1回は外に遊びに出ている」児童の割合。				児80% 教85%	児80% 教84%	A	○教師も外に出て遊ぶ機会が多く、児童の外遊び促進につながった。 ○体育科（なわとびや持久走）、関連付け、イベント的に運動を楽しむ児童が増えた。 △遊び方や遊ぶ場所の工夫をして休憩時間をもっと充実させるための環境整備が必要。	○委員会を中心にイベントなどの取組を充実させ、児童が遊びたいと思うような手立てをすすもとも、思い切り遊べる環境（運動場のローテーション、体育館の解放、道具の充実など）を整備していく。
		・人や自分の命を大切にし、安全に生活しようとする児童の育成	・避難訓練・防犯教室・SNS教育の取組				・児童および教師アンケートにおける、自分の命を守るための安全な行動の仕方が分かっている児童の割合。	児93% 教69%	児96% 教76%	A D	○避難訓練担当教員がICTを活用し、充実した指導を行うことができた。また、今までにない想定状況に挑戦することができた。 △児童の動きが少なく、机上の学びに留まっているので、実践的な訓練をできる範囲で工夫して行う。 △教師側の研修の充実を図る必要がある。
信	信頼される学校を目指す	・迅速・誠実・丁寧な対応、意図的・計画的な家庭訪問の実施	・保護者アンケートにおける、学校の取組を信頼できると考えている保護者の割合。	保97%	保99%	A	○学校での児童に関する情報共有に組織的に取り組んだことで、児童のトラブルや保護者の思いに丁寧に対応したことが保護者の信頼を醸成することへつながっていると考えられる。 △学校へ来てもらう機会が限られている中で、児童が安心して過ごしている様子や学習に熱心に向かっている様子を見てもらえるようにしていくことが必要である。	○来年度も生徒指導主事を中心に、組織的な情報共有ができるようにしていくことや保護者に対しても情報公開を行い、信頼を得ていく取組を実施していく。			
		・HP、学校、学年だよりによる情報の発信	・HPを月2回以上更新。 ・学校だより、学年だよりを月1回以上発行。				100%	100%	A	○ICT担当の中にHP担当を位置付けたことで確実に更新することができている。また、学年によっては、学級だよりを発行し、積極的に情報を公開している。 △HPや学校だより等保護者のニーズに合わせて内容を検討していく必要がある。	○HPや学校だより等の内容を検討していき、より効果的な情報発信をしていく。
		・保護者・地域と連携した授業の実施	・保護者・地域の方参加型の授業を各学年1回以上実施。				2学年	全学年1回以上実施又予定	A	○コロナ禍の中で、できる限りの対策をとり、保護者や地域の方の参加型の授業を実施することができた。 △保護者や地域の方の参加型授業や授業参観も含めて、直前の実施になることが多かった。	○今後のコロナ対応の要否を注視しながら、できるだけ年間計画に基づいた保護者や地域の方の参加型授業や参観授業、行事等を実施していく。
		・「児童と向き合う時間」を確保	・教職員アンケートで「児童と向き合う時間の確保ができている」割合。	教92%	教88%	A	○業務が多忙になる時期に合わせて、児童の下校時刻を早めるなど、放課後の時間を確保したことによって、児童に向き合う時間の確保につながった。 ○不登校児童への対応の仕方や保護者への対応の仕方、児童虐待の早期発見についてなど、研修を実施することで、児童理解へのスキルアップへつなげていった。 △日常の職員の通勤時間が遅くなりつつある。更に業務改善の視点を持ち、業務の精選や時間確保が必要である。	○来年度に向けて、今年度の業務について見直し、業務の精選や教職員の業務時間の確保を計画的に実施していく。			